

水稻用一発処理除草剤

クラッシュ[®] EX ジャンボ

あぜからカンタン散布できます!!



ノビエ



ホタルイ



アゼナ



ウリカワ



セリ

パック10個（一反あたり）を
投げ込むだけで除草作業終了!!
そしてよく効く。

20m近くまで拡がるパック剤!!（優れた自己拡散力）



投げ込み直後



パックが溶け、いったん沈み次第にツブが拡がります（数分後）



田んぼ全体に
広くいきわたります。

特長

① 田んぼに入らず、あぜから投げ込むだけのカンタン散布!!

10a当り500g (50gパック×10個)を散布します。

② 20m近くまで拡がるパック剤(自己拡散力)!!

③ 田植後3日からノビエ2葉期までの散布で、さまざまな雑草に長〜く効く!!

■適用と使用方法

2010年5月現在

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、北陸) ヒルムシロ (北陸を除く) セリ アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植後 3日~12日 (ノビエ2葉期まで)	壤土~埴土	小包装(パック) 10個(500g) /10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	東北
		移植後 3日~15日 (ノビエ2葉期まで)					北海道
		移植後 3日~12日 (ノビエ2葉期まで)	砂壤土~埴土				北陸
		移植後 3日~10日 (ノビエ2葉期まで)					関西以西の 普通期および 早期栽培地帯

発生前後の早め散布で
SU抵抗性雑草(アゼナ)
にも有効!!

イマズスルフロンを含む
農薬の総使用回数

2回以内

カフェンストロールを含む
農薬の総使用回数

1回

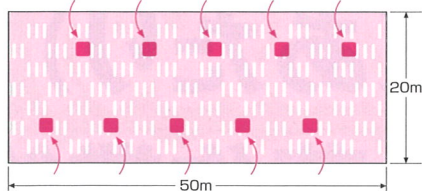
ダイムロンを含む
農薬の総使用回数

3回以内
(育苗箱散布は1回以内、
本田では2回以内)

■上手な使い方

- 散布時は深水(5~6cm)にして下さい。
- 藻類、浮草が発生する前に散布して下さい。
- 「濡れた手」で扱わないで下さい。
バックを破らずにそのまま投げ入れて下さい。

■使用量 ●10アール(1反)では10個を投げ込む(6~7m間隔)で。



■主要雑草に対する散布適期

ノビエ	2葉期まで
ホタルイ	
ウリカワ	
ミズガヤツリ (北海道を除く)	発生始期まで
ヘラオモダカ (北海道、北陸)	
ヒルムシロ (北陸を除く)	発生期まで
セリ	再生始期まで
アオミドロ・藻類による 表層はく離	発生前まで

【使用上の注意】

- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用することが望ましいです。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきは丁寧に、ワラくすなどの浮遊物はできるだけ取り除いてください。また未熟有機物を施用した場合は特に丁寧にしてください。
- 処理に当たっては、水の出入りを止めて5~6cmの湛水状態に保ってください。処理後、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないでください。また散布後7日間は、落水、かけ流しはしないでください。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じてください。
- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ってください。
- 小包装(パック)のまま、10アール当り10個の割合で水田に均等に投げ入れてください。
- 藻類や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるため使用をさけてください。
- バックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意してください。
- 以下のような条件では葉害が発生する恐れがあるので使用をさけてください。特に、処理時または処理後数日以内に異常高温が重なる場合は、初期生育の抑制が顕著になるので注意してください。

①砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)。

- ②軟弱な苗を移植した水田。
- ③極端な浅植えの水田。
- 梅雨期等、処理後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさけてください。
- いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育中に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 使用した水田の田面水は、他作物の湛水に用いないでください。
- 水溶性フィルム包装が破袋した場合は以下の点に注意してください。
- 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●農薬は正しく使いましょう! ●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●小児の手の届く所には置かないで下さい。

2011年4月作成 全農企画社 008